※令和４年度以降入学生用

学校番号	１０１３

令和８年度　地理歴史科

教科	地歴	科目	歴史総合	単位数	１単位	年次	１年後期
使用教科書	「詳述　歴史総合」　（実教出版社）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・教科書や諸資料をもとに歴史という時間軸を感じる。
・歴史的事象に「なぜ」の視点を持つ。
・歴史を背景とした世界の国の諸事情を踏まえ、現在の日本の在り方を考える。

２　学習の到達目標

【知識及び技能】
・近現代史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の位置づけられた日本という視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。
【思考力、判断力、表現力等】
・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義，特色などを、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、それらを基に議論したりする力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
・近現代の歴史の変化に関わる諸事象を追究し、将来起こりうる社会問題について、主体的に取り組もうとする態度を養うとともに、自国・他国の文化を尊重する大切さについて自覚を深める。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそのなかの日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
後期	国際秩序の変化や大衆化と私たち	経済危機と第二次世界大戦	a:世界恐慌とその脱出について日本と世界がどう結びつくか理解している b: ファシズムが伸長した背景とその特徴を、考察し、表現している。 c: 第二次世界大戦が大規模で凄惨かつ長期化した戦争となった背景と大戦の推移について、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。	考査、グループ協議における発表	考査、グループ協議における発表、ノート	グループ協議における発表、ノート
	グローバル化と私たち	冷戦と脱植民地化 多様化する世界 グローバル化と現代社会	a: 高度経済成長へと至る経緯について整理し、諸条件にもとづいて高度経済成長が達成されたことを理解している エネルギー開発や自由貿易、核軍縮などが 21 世紀初頭に見直されるなど、決して単線的に物事が進行しているわけではないことを理解している。 b: 米国と西欧諸国との関係の変化、ソ連の東欧諸国への影響力について考察し、表現している。 資源をめぐる争いについて、日本がどう対応したのかについて考察している。 c: 日本が戦後処理を通じ、アジアの国々との関係をどう結んだかについて、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 諸資料の比較、分析を通して高度情報化社会や知識基盤型社会の到来について自分の意見を構築しようとしている。	考査、グループ協議における発表	考査、グループ協議における発表、ノート	グループ協議における発表、ノート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度